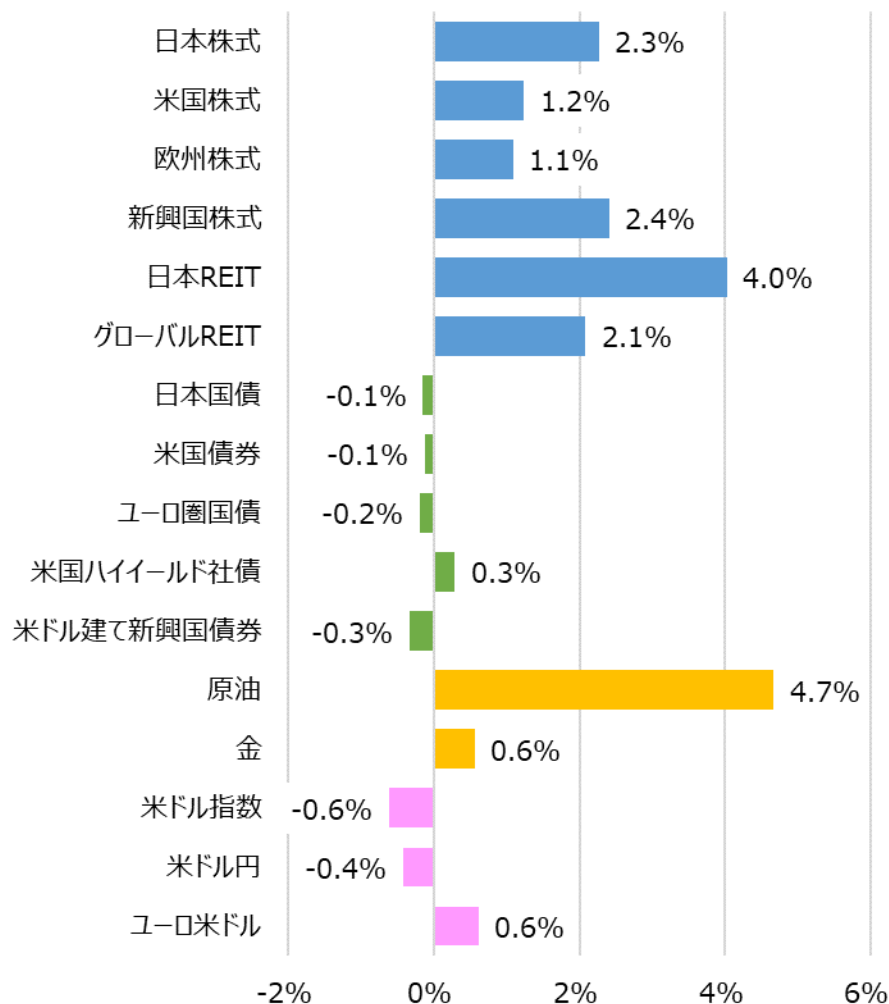




Weekly Market Review

期間：2021年2月8日～2021年2月12日



【日本株式】

日経平均は約30年半ぶりに29,000円台を回復しました。決算発表で業績を上方修正する企業が相次ぎ、**業績回復基調が確認**できたことで投資家心理が強気に傾きました。日銀発表のマネースtock速報では通貨供給量の主要指標（M3や広義流動性）の伸び率や残高が過去最大を記録し、**緩和マネーが相場を支える構図**が改めて意識されました。

【米国株式】

主要な3株価指数は揃って最高値を更新しました。**米政府が半導体の品薄状態を解消するための支援策をまとめる方針**を示したことからフィラデルフィア半導体株指数（SOX）も過去最高値を付けました。イエレン財務長官が経済対策の実現による労働市場の回復に自信を示したことや、**民主党ペロシ下院議長が現行の失業保険の給付特例措置が失効する3月中旬までに経済対策を成立させる姿勢**を示したことなどが好感されました。

【欧州株式】

欧州では感染拡大にブレーキがかかり、域内各国は徐々に行動規制を緩和し始めました。欧州委員会は2021年の経済成長率見通しを下方修正しましたが、行動規制緩和やワクチン普及によって**22年の成長率は前回予測を上回る**としました。英国の2020年実質GDP速報値は前年比9.9%減と大幅に落ち込みましたが、ワクチン普及が進んでいることなどから、**市場では21年4-6月期以降は急回復**するとの見方が大勢を占めています。

【新興国株式】

中国株が牽引役でした。中華圏の春節休暇で売上増が期待される消費関連株などが好調でした。**中国人民銀行が四半期金融政策実施報告で穏健な金融政策を維持**すると表明したことや、**人民元建て融資残高が大幅増**となったことも好感されました。財政拡大路線の予算案が高く評価されているインド株も引き続き買われました。

【日本REIT】

高値警戒感の漂う株式市場から**出遅れ感の強いREIT市場への資金移動**が見られました。国内感染者数の減少やワクチンの早期接種開始による経済活動正常化への期待などが相場を押し上げました。オフィスや物流、住宅用などを中心にほぼ全てのセクターが上昇しました。

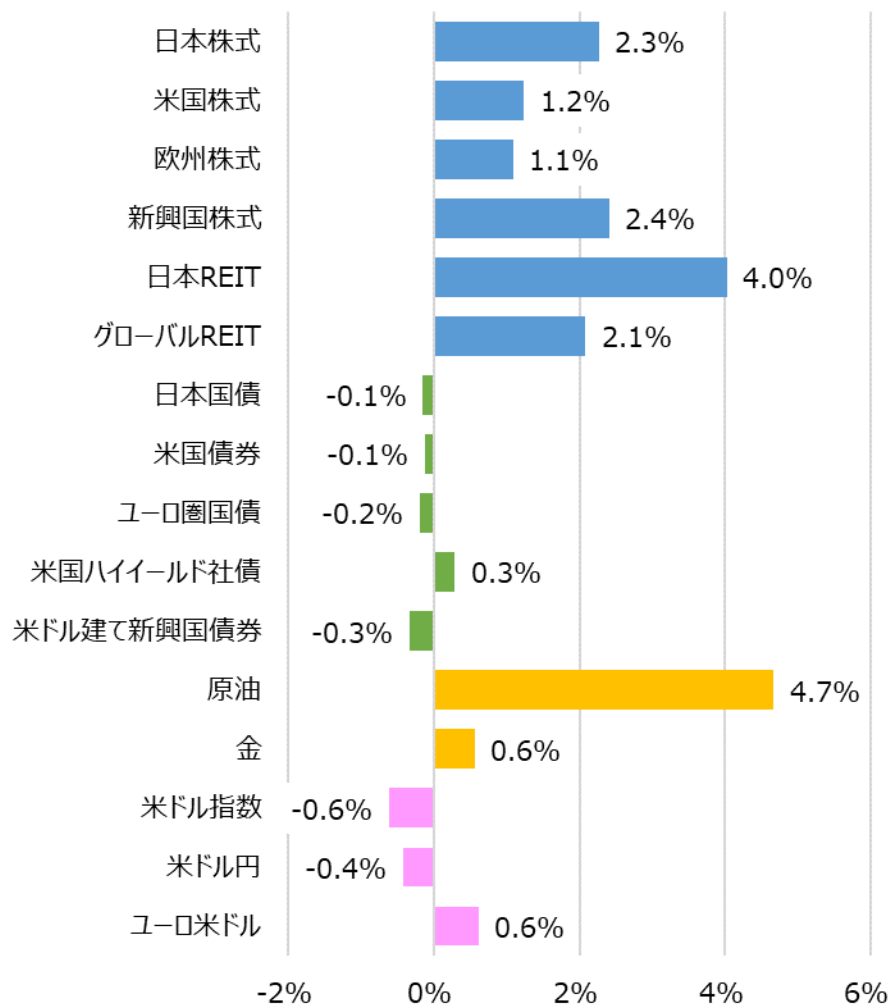
【グローバルREIT】

米国市場が好調でした。クリーブランド地区連銀総裁が緩和政策の長期化に言及し、パウエルFRB議長が緩和策維持の重要性を訴えたため、緩和マネーの流入が続くととの楽観に繋がりました。**住宅用やショッピングセンターなどのリテールREIT**がパフォーマンスに貢献しました。



Weekly Market Review

期間：2021年2月8日～2021年2月12日



【日本国債】

米ファイザー製ワクチンが航空便で日本に到着し、2月中旬にも接種が開始されると報じられたことなどから**経済正常化への期待が高まり、安全性資産とされる国債市場は軟調**でした。ただ、日銀が3月会合で予定している政策点検結果の公表で、マイナス金利の深掘りも排除しない方針を示すと一部の報道から金利低下圧力が強まり、相場を支えました。

【米国債券】

米議会予算局が**2021会計年度（2020年10月～2021年9月）の財政赤字が2020年9月の前回予測から大幅増となる見通し**を示し、国債増発への警戒が強まりました。ただ、消費者物価指数（食品・エネルギーを除く）が前月比横ばいとなり、足もとの物価上昇圧力の弱さが示され、早期の緩和縮小観測が後退したことで下値は限定的でした。

【ユーロ圏国債】

ユーロ圏や英国の長期国債利回りは概ね米国債利回りの上昇に連れた動きとなりました。安定政権樹立への期待からイタリア国債は引き続き買われました。**ドラギ前ECB総裁が連立政権協議でイタリア最大与党と最大野党など幅広い政党から支持を獲得し、大統領から次期首相に任命**されました。

【米国ハイイールド社債】

基準となる米国債利回りは上昇しましたが、株式市場が堅調だったことから**クレジットスプレッドが縮小**しました。**エネルギーセクターや消費関連銘柄**が堅調でした。

【新興国債券（米ドル建て）】

新興国債券の**クレジットスプレッドは小幅に拡大**しました。特に**エクアドル国債が軟調**でした。大統領選の第1回投票で国際通貨基金（IMF）との緊縮財政合意を尊重しないと明言している反米左派候補が優勢と伝えられました。

【コモディティ（金・原油）】

金は米ドル安や**米名目長期金利ほど実質金利が上昇しなかった**ことなどから堅調でした。原油は、**米原油在庫が予想外の大幅減**となったことや経済活動正常化期待から需給の引き締まりが意識され、上昇基調を強めました。

【米ドル指数】

米ボラティリティ・インデックス（VIX）が終値ベースで昨年2月以来初めて20を下回るなど、市場のリスク回避姿勢が弱まり、米ドルが資源国や新興国通貨など幅広い通貨に対して売られました。円やスイスフランなどリスク選好時に売られやすい通貨も対米ドルで上昇しました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ